

女性摂食障害患者の SNS 使用に関する調査

○鈴木円佳（管理栄養士）¹⁾ 中村友美子（管理栄養士）¹⁾ 山本泰輔（医師）²⁾
医療法人耕仁会札幌太田病院 1) 食事サービス課 2) 医局

【はじめに】

摂食障害の発症にはやせを礼賛するマスメディアの影響が大きく、SNS（Social Networking Service）利用がボディイメージの乱れや食行動に不適切な影響を与えているとする研究結果が多くある。摂食障害の栄養指導を行う中で SNS の話題が出ることも多いとも感じている。本研究では、摂食障害を持つ女性の SNS 利用の特徴を明らかにし、摂食障害の治療にあたり SNS とどのように付き合っていく必要があるのかを探る。

【方法】

10～30 代の外来通院中・入院治療中の摂食障害を持つ女性 14 名（患者群）および、10～30 代の当院女性職員 14 名（対照群）に WEB と紙を用いた質問調査を行なった。調査項目は、ボディイメージのずれ値（実際の BMI-認知している BMI）、日本語版 EAT-26（神経性やせ症を早期発見するスクリーニングテスト）、SNS のアカウント所有数、ダイエット専用 SNS でのフォロー数とその種類とした。

【結果】

患者群 12 名（未回答 1 名、回答拒否 1 名）、対照群 14 名から回答を得た。患者群と一般群の差を検討するためにボディイメージのずれ値、日本語版 EAT-26、SNS ごとの所有アカウント数について、対応のない *t* 検定を行った。

ボディイメージのずれ値では患者群-3.25、対照群-0.31 であり有意な差がみられた ($p<0.01$)。日本語版 EAT-26 は合計平均点数が患者群 26.5、一般群 4.4 であり患者群が有意に高かった ($p<0.01$)。SNS ごとの所有アカウント数は有意差がみられなかった。

その他の SNS では LINE、GRAVITY（チャットや音声通話中心の SNS）が挙げられた。ダイエット専用として SNS 利用があると回答したのは患者群で 2 名、一般群では 0 名だった。その SNS の種類は Instagram（写真共有がメインの SNS）で、フォローしているアカウントはダイエット料理・レシピ系アカウント 12 個、ダイエット運動系アカウント 1 個、ダイエット経験者・継続中のアカウント 4 個であった。

【考察】

摂食障害女性の SNS 利用方法について、対象群と比較しアカウント所有数の差はなかった。しかし、患者群の一部はダイエット専用の Instagram アカウントを持ち、ダイエット情報収集をしていた。Instagram は写真がメインの SNS であるため、料理・体型・体重の推移などが視覚情報として得やすい SNS だったと考える。

摂食障害と SNS の付き合い方は、今回の結果からは明確に出来なかった。専用アカウントがなくてもダイエット情報収集していることを想定し、SNS の利用時間などの質問を追加すれば摂食障害と SNS の付き合い方を明らかにできるかもしれない。